

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	小児科学 Pediatrics	DM_1419	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎三牧 正和 小林 茂俊 南谷 幹史 (病院教授)		萩原 教文 小山 隆之 高橋 和浩 伊藤 直樹 星野 英紀	佐藤 恭弘 森田 清子	中村 こずえ (客員講師)
溝口	◎渡辺 博 井田 孔明		稲富 淳		

	小児科学Ⅰ (1年次)				小児科学Ⅱ (2年次)				小児科学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	<p>小児の総合診療医である小児科医としての一般的な知識・考え方を習得する目的で講義および演習を行う。</p> <p>実習に関しては、病棟主治医として、指導医とともに診断・検査・治療を行うこと、一般外来、専門外来、健診を指導医のもと見学し、必要に応じ、検査、処置、治療を行うことにより履修する。</p> <p>さらに、成育医療、小児の総合医療、健康支援の実践について学ぶ。</p>				<p>小児科の各領域(小児神経、小児免疫・アレルギー、小児血液腫瘍、小児内分泌代謝、小児循環器、小児腎泌尿器、小児消化器、小児心身医学)について、講義および演習を行い、より専門的な知識を習得する。</p> <p>病棟での実習により、検査、処置、治療技術を向上させ、患者の診断・検査・治療の計画を、指導医の指導のもと自分で立案できるレベルまで習得する。外来での実習にて、外来主治医として患者治療を行う。</p> <p>さらに、救急外来での実習にて、小児救急医療について学ぶ。</p>				<p>サブスペシャリティの専門医資格取得につながる専門的能力を習得する。</p> <p>研究については、研究者であるための基本的な能力を修得し、本態解明、診断、治療にかかわる研究能力、結果を発表する能力を修得する。</p> <p>また、病院の精度管理、倫理、医療安全に貢献できる能力を育成する。</p>			
到達目標	<p>1)小児の生理学的特徴や病態について理解し、児の状態を把握することができる。</p> <p>2)児の状態に応じ重症度を判断し、軽症例について自ら適切な処置や治療を行うことができる。</p> <p>3)指導医とともに、中等症・重症患者の管理ができる。</p> <p>4)乳幼児健診や予防接種など、保健医療を実践する。</p>				<p>1)小児総合診療医として必要な、各専門領域の基礎的知識を習得する。</p> <p>2)児の状態に応じ重症度を判断し、中等症例について自ら適切な処置や治療を行うことができる。</p> <p>3)チーム医療の要として、主体的にコミュニケーションとの意思疎通、感染対策、医療安全に取り組む。</p>				<p>1)資格取得年度に小児科専門医を取得する。</p> <p>2)重症児の治療方針を主体的に決定し、チーム医療の中心的役割を果たす。</p> <p>3)サブスペシャリティの専門研修に役立つ専門的能力を習得する。</p> <p>4)児の代弁者として、様々な家庭環境に応じたアドボカシーを、多職種と連携しながら具体的に実践できる。</p> <p>5)研究者であるための基本的な能力を修得し、問題意識をもって研究目標を設定する。</p>			
事前事後学修	<p>講義内容について、参考書を用いてよく予習する。</p> <p>関連学会や地方会、地域における検討会、勉強会などへ参加する。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>講義内容や経験した症例について、参考書を用いてよく復習し、理解を深める。</p> <p>関連学会や地方会、地域における検討会、勉強会などへ参加する。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>経験した症例について、専門医試験用に症例要約を作成する。</p> <p>関連学会や地方会、地域における検討会、勉強会などへ参加し、発表する。</p> <p>1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	<p>講義への受講態度、回診および小児科カンファレンスにおけるプレゼンテーションなどから評価やチェックを受ける(受講態度50%、プレゼンテーション技術50%)</p>				<p>講義への受講態度、回診および小児科カンファレンスにおけるプレゼンテーションなどから評価やチェックを受ける(受講態度50%、プレゼンテーション技術50%)</p>				<p>講義への受講態度、回診および小児科カンファレンス、リサーチカンファレンスにおけるプレゼンテーションなどから評価やチェックを受ける(受講態度50%、プレゼンテーション技術50%)</p>			

■主な演習(講義・実習含む)

	小児科学Ⅰ (1年次)	小児科学Ⅱ (2年次)	小児科学Ⅲ (3年次)
板橋	木 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 講義(別途指示)	木 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 講義(別途指示)	木 曜日 18 : 00 ~ 19 : 30 講義(別途指示)
	水 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 乳幼児健診実習	水 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 内分泌負荷試験	金 曜日 10 : 00 ~ 13 : 00 食物アレルギー負荷試験
	火 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 小児科カンファレンス	火 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 小児科カンファレンス	火 曜日 13 : 00 ~ 16 : 00 小児科カンファレンス
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
溝口	月 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 小児科カンファレンス	月 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 小児科カンファレンス	月 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 小児科カンファレンス
	水 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 乳幼児健診実習	木 曜日 9 : 00 ~ 11 : 30 小児外来実習	木 曜日 9 : 00 ~ 11 : 30 小児外来実習
	木 曜日 9 : 00 ~ 11 : 30 小児外来実習	金 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 予防接種実習	金 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 予防接種実習
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

ネルソン小児科学

その他履修上の注意事項

板橋:小児4次救急医療や、神経外科領域など、当院では習得することが困難な症例においては、他施設と連携して学外実習を状況に応じて検討することがある。

溝口:小児3次救急医療や、新生児集中治療など、当院では習得することが困難な症例においては、他施設と連携して学外実習を状況に応じて検討することがある。

試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。

この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	新生児学、内科学系、外科学系、放射線診断学・放射線腫瘍学、生理学系、人体病理学・病理診断学
	共通科目	小児科学特論

関連する専門医資格

小児科専門医

キャリアパス(モデルコース)

